

質 問 回 答

2021年3月23日

「(案件名 【電子入札対応】 全世界大気環境管理セクター情報収集・確認調査(一般競争入札(総合評価落札方式)) 」
(公示日:2021年3月10日/公示番号: 20a01186) について、入札説明書に関する質問と回答は以下のとおりです。

通番号	当該頁項目	質問	回答
1	第2章特記仕様書(案) 第5条 調査の内容p.18の(10) 統計分析、解析、考察 「(中略)収集・整理した情報に対し、以下に示す基礎的な社会経済指標、自然条件等との相関に係る <u>基礎的な統計処理(カイ二乗検定、t 検定等)</u> ・ <u>解析を行い、都市環境管理体制や社会経済的発展の変遷と大気汚染状況相関に係る考察を行う。</u> 」	統計分析や処理方法については、仕様書に規定されているカイ二乗検定、t 検定等の他に適切な統計分析や処理方法があれば、そちらを使用する事は問題無いでしょうか？	他に適切な統計分析や処理方法があれば、そちらを使用することで問題ありません。技術提案書において、当該手法を採用する理由や優位性等について詳細を説明お願いします。
2	同上	統計ソフトウェアの使用に関する損料は計上可能でしょうか？	損料として計上可能です(本見積)。ただし、積算根拠資料(※)に基づき、損料単価の妥当性を確認させていただく場合があります。(※)コンサルタント等契約における経理処理ガイドライン(QCBS 方式対応版)P19 参照。 https://www.jica.go.jp/announce/manual/guideline/consultant/quotation_qcbs.html

通番号	当該頁項目	質問	回答
3	<p>第2章特記仕様書(案) 第5条 調査の内容p.18の(11)コベネフィット効果に係る考察</p> <p>「エネルギー消費量、GHG 排出量データが入手できた場合には、統計分析ツール(カイニ乗検定、t検定等)を活用し大気汚染対策と気候変動のコベネフィット効果に関する考察を行う」</p>	<p>統計分析ツール(カイニ乗検定、t 検定等)を活用し大気汚染対策と気候変動のコベネフィット効果に関する考察を行うとありますが、統計分析が実施できる程のデータ量が揃わなかった場合については、収集したデータを基に定量的・定性的な大気汚染対策と気候変動のコベネフィット効果に関する考察を行うという理解で良いでしょうか？</p>	<p>ご理解のとおりです。</p>
4	<p>第2章特記仕様書(案) 第4条(1)調査対象国の選定</p> <p>「(中略)43か国を調査対象候補国とする」</p>	<p>第1段階の調査対象国で、入札説明書に記載された43カ国以外に加えた方が良い国があれば、提案書で対象国を加えても良いでしょうか？</p>	<p>調査対象候補国を追加提案することを妨げるものではありません。技術提案書において応募者の考える調査対象候補国とその理由について詳細の説明をお願いします。なお、調査対象候補国を追加提案いただく場合、入札説明書において当機構が提示した全体の業務量を変更することは想定していないため、入札にて提示された入札金額により当該対象候補国について調査を実施していただきます。</p>

以上